

「婦人の現状」について

38・11・7

労働省婦人少年局婦人課

「婦人の現状」は、総論において戦後における婦人の法制上の地位及び、実生活の変化を記述し、各論では、主として最近10年間の婦人の動向を統計資料にもとづき分析している。以下、各論のなかからいくつかの問題点について述べることにする。

1. 婦人の人口構成の変化

最近の人口構成の変化のほかで、婦人に関連してとくに注目されることは、平均寿命がいちじるしく長くなつた結果（昭和10～11年 49.6歳、36年 70.8歳）老令人口の増加が目につくことである。15歳～39歳の層の未婚婦人の割合が大幅に増大しているのも一つの特色と言える。

一方、就業状態別にみた有配偶婦人の構成も変動しており、30年から35年にかけて、15歳以上の有配偶婦人のほかの農家業主（いわゆる主婦農家）は29万から59万へと倍増し、雇用人（いわゆる共かせぎ）は106万から178万へと増加している。

2. 女子教育の進展

最近、義務教育以上の学校教育を受ける女子が急激に増加している。女子中学生の進学率は25年 41.1%に対し、37年 62.5%となり進学率の男女差の縮小が目につく。また、高校卒業後、就職するものが目立つ一方、女子大学生の増加もいちじるしい。

3. 婦人の就業状況

最近における日本経済の高度成長は婦人の就業状況にも影響をあたえ、雇用人の増加がいちじるしく、家族従業者の減少が目につく。30年から35年にかけて新業者総数に占める雇用人の割合は33%から41%へ増加し、家族従業者は56%から45%に減少している。

雇用人の平均年齢も高くなる傾向がみられ（23年 23.5歳、37年 26.9歳）、有夫者の割合も増加している（25年 9%、36年 21.7%）。

女子雇用人の産業別分布も変動しているが、とくに製造業の増加がいちじるしく、そのなかでも電気機械器具製造業は急激に膨張している。

4. 農家の婦人

既に述べた日本経済の高度成長によつて、第2次、第3次産業の雇用が増大した結果、農家の労働力人口が減少し、また婦人労働への依存がたかまつてきている。婦人農業従業者は716万（35年）で男子より110万多く、10年前より男女差が拡大している。年齢階層別の動向をみると、最近11年間に、大まかにいって、20歳未満は男女ともに10分の1となり、20～35歳は男子は半減、女子は3分の2となつて（いるが、35～

婦人少年室
第26号
38. 11. 14

60歳は男子の約7割に対し女子は、35年以降増加の傾向がみられ、中高年婦人の労働が強化されているとみられる。

5. 結婚および離婚

30年以降、婚姻率は次第に上昇し、離婚率は大まかにいつて低下している。妻の平均初婚年齢は高くなる傾向がみられ(22年 22.9歳、35年 24.4歳)夫との年齢差が縮小している。

届出のなされた離婚について、その種類別にみると、協議上の離婚は減少し(25年 95.5%、35年 91.2%)、調停離婚、判決離婚が増加の傾向を示している。

6. 家庭生活

家庭生活に関しても構造的な変化がみられる。すなわち、勤労者世帯の増加と小家族化の進展である。35年において勤労者世帯はわが国総世帯の52%を占める。また、夫婦と子供だけからなるいわゆる中核世帯が6割を占め、出生率の低下とあいまって世帯人員の減少が目立つ。25年 5.20人に対し、35年は4.56人である。

なお、家庭経済の変化を勤労者世帯の家計についてみれば、エンゲル係数は30年以降低下し(30年 44.5%、36年 37.7%)、住居費や教養娯楽費を含む雑費が増加している。

小家族の増加、生活様式の変化などによつて、主婦の家事時間が短縮され、余暇時間が増大し、家庭における主婦の生活は戦前にくらべると、いちじるしく変ぼうしている。

7. 婦人の市民活動

婦人の投票状況をみると、衆議院総選挙・参議院通常選挙における投票率の男女差は回数をかさねるごとに減少している。地方選挙においては、投票率は男女ともに国会よりも高く、しかも、行政区分の末端ほど投票率が高い。とくに、婦人にこの傾向はいちじるしく、その男女差は「国会」よりも少なく、むしろ地域によつては男子を上回るものもある。

公職にある婦人は衆議院議員は減少の傾向がみられるが、参議院議員は増加の傾向を示している。地方議会においては、都道府県議会がわずかに増加した以外はほとんど動きがみられない。総数に占める婦人議員の割合は「国会」が多く、行政区分が末端にいく程少ない。任命・委嘱による公職についている婦人は、大まかにいつて、増加の傾向を示している。

婦人の組織活動についてみると、30年以降、新しく組織された婦人団体も少なくなく、その活動の範囲も幅広くなり、フレッシュマールーフとしての役割が社会的にも重視されるようになった。

8. 婦人の保健

栄養状態の改善にともなつて、とくに、女子青少年の体位の向上はいちじるしい。(15歳平均体重、36年と10年の差、男 1.5 kg、女 3.16 kg)。一方、公衆衛生の向上などによつて、死亡率が低下したが、とくに婦人にその低下が目立ち、男女差が拡大する傾向が見られる。

家族計画の普及により、出生率は急激に減少したが、人工妊娠中絶件数は少なくない。

9. その他

婦人の死亡率が男子よりも低く、平均寿命が長くなつたことなどにより、中高年婦人のなかの死別者の割合が多く、50歳以上の婦人の 44.6%である。また、中高年婦人のなかには単独で生活するものが増加している。

